

多摩ニュータウンにおける災害に強い コミュニティデザインに関する研究 2

Study on the disaster-resistant community design in Tama New Town 2

共同研究メンバー

○増田浩通*、中庭光彦*、奥山雅之**、松本祐一*、久保田貴文*（○代表、執筆者）

1. はじめに

本研究では、多摩ニュータウンの都市特性を把握し、その特性に応じた災害に強いコミュニティをデザインし、マネジメントしていくことを目的とする。そのための諸手法を多摩ニュータウンに実際に住んでいる住民とともに考案、計画し、作成していくことを目指す。今年度は防災意識に関する住民アンケートの実施を中心に研究を進めた。

2. 防災意識に関する住民アンケートの実施とその概要

多摩大学経営情報学部と連光寺・聖ヶ丘地域福祉推進委員会は2015年から連携し、多摩大学連携グループを発足した。災害時の連携・協力について多摩大学がかかわり新たな防災連携モデルを検討するためである。そこで防災意識に関する住民アンケートを実施した。地域住民の防災意識を測り、今後の災害に強いまちづくりに活かしていくことが目的である。実施時期2016年10月から2017年2月まで。アンケート回収数344件（有効301、無効43）

研究の一環である防災アンケートの実施協力の為、地区合同防災訓練に参加した。

- ・地区合同防災訓練 10月9日（日）/聖ヶ丘中学校 アンケート回答数67件（有効56、無効11）
- ・地区合同防災訓練 10月22日（土）/聖ヶ丘小学校 アンケート回答数144件（有効123、無効21）
- ・地区合同防災訓練 2017年2月26日（日）/連光寺小学校 アンケート回答数25件（有効19、無効6）
- ・京王一ノ宮自治会 12月実施 アンケート回答数88件（有効84、無効4）
- ・連光寺向ノ岡自治会 2017年2月実施 アンケート回答数20件（有効19、無効1）

またその準備・説明のために9月24日（土）連光寺・聖ヶ丘地域福祉推進委員会（於：ひじり館ホール）に参加した。同じく10月15日（土）聖ヶ丘小学校地区防災訓練打ち合わせに参加した。（於：聖ヶ丘小学校） 同じく11月30日 連光寺小学校防災訓練打ち合わせ（於：本村集会所）

* 多摩大学経営情報学部

** 明治大学政治経済学部



地区合同防災訓練 10月9日(日)/ 聖ヶ丘中学校



地区合同防災訓練 10月22日(土)/ 聖ヶ丘小学校

3. 調査内容

アンケート調査をするにあたり、以下の点を考慮した。

- (1) 地震災害への関心度
- (2) 日頃の防災対策
- (3) 家庭内の安全対策と住居の耐震化
- (4) 災害時の避難について
- (5) 防災訓練について
- (6) 災害時要援護者対策について
- (7) 回答者自身の防災に関する考えと多摩大学への要望
- (8) 回答者本人の情報

以下アンケート結果より、抜粋をする。

(1) 地震災害への関心度

Q2 多摩市に大地震が発生する確率はどれくらいだと思いますか？			
		度数	パーセント
有効	非常に高い	19	6.3%
	高い	144	47.8%
	あまり高くない	82	27.2%
	低い	9	3.0%
	わからない	47	15.6%
	合計	301	100.0%

Q5 災害発生時に、特に心配することは何ですか？（○はいくつでも可）				
度数分布表				
		応答数		ケースのパーセント
		度数	パーセント	
\$Q5	家族の安否	263	11.5%	87.4%
	水道や電気、ガスなどのライフラインの確保	236	10.3%	78.4%
	食料品の確保	193	8.4%	64.1%
	水の確保	201	8.8%	66.8%
	トイレの確保	211	9.2%	70.1%
	常備薬の確保	76	3.3%	25.2%
	家屋の倒壊、損壊	152	6.6%	50.5%
	火災の発生	157	6.8%	52.2%
	家具の転倒、損傷	161	7.0%	53.5%
	災害情報の入手	94	4.1%	31.2%
	避難場所の確保	93	4.1%	30.9%
	治安の悪化	68	3.0%	22.6%
	交通機関のマヒ	136	5.9%	45.2%
	帰宅困難	125	5.5%	41.5%
	通信手段が遮断され連絡不可能	125	5.5%	41.5%
特になし	2	0.1%	0.7%	
合計		2293	100.0%	761.8%

Q16 その他、日ごろの防災に関するお考えや、防災に関して多摩大学に希望することなどございましたらご記入ください。（抜粋）

- ・ 災害時（特に昼間）は若い人の居住者が地域にいないことが多い 学生さんの力がほしい
- ・ 防災訓練を、ボランティアで参加する形式で多摩大学さんが主催で行って頂きたいです。
- ・ 災害発生時、地域住民のための避難受け入れをお願いしたい。
- ・ 当地域は老人が多いので大学の若い人達の応援を期待しています。
- ・ 災害時だけではなく日常でもっと近隣住民と何か接触を持っているとイザという時によりスムーズに行くのではないかと思う。聖ヶ丘も30年以上経ち住民の高齢化が著しいと思われます。
- ・ 東部団地は戸建ての家が多いので又道路も少しせまく避難するのに大変かも。アップダウンの道です。日頃からの避難の練習が大切と思います。
- ・ 今後高齢化が進む中で、帰宅困難となった若者（学生）の聖ヶ丘地区での支援活動を望む。給水栓から避難場所への水の運搬を求めたい。（かなりの重量となるため）
- ・ 災害時の自治会、公立学校との連携 例えば非常食、飲料の助け合い、避難者との交流（子供などの相手などでもよいです）をお願いできるといいと思います。

(8) 回答者本人の情報

性別			
		度数	パーセント
有効	男性	172	57.1%
	女性	129	42.9%
	合計	301	100.0%

年齢			
		度数	パーセント
有効	10 歳代以下	6	2.0%
	20 歳代	3	1.0%
	30 歳代	15	5.0%
	40 歳代	31	10.3%
	50 歳代	35	11.6%
	60 歳代	100	33.2%
	70 歳代以上	111	36.9%
	合計	301	100.0%

(住宅の形態) お住いの形態は次のどれですか？					
		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	一戸建て (持家)	207	68.8%	74.2%	74.2%
	一戸建て (借家)	4	1.3%	1.4%	75.6%
	集合住宅 (分譲)	51	16.9%	18.3%	93.9%
	集合住宅 (賃貸)	17	5.6%	6.1%	100.0%
	合計	279	92.7%	100.0%	
欠損値	99	22	7.3%		
合計		301	100.0%		

謝辞

本研究は、多摩大学共同研究プロジェクト「多摩ニュータウンにおける災害に強いコミュニティデザインに関する研究」の一環であり、多摩大学から共同研究費の助成を受けました。また研究を進めるにあたり、連光寺・聖ヶ丘地域福祉推進委員会、社会福祉法人 多摩市社会福祉協議会の協力を得ました。ここに謝意を表します。

参考文献

- ・『羽村市 防災に関する市民アンケート報告書』、平成 25 年 3 月 羽村市
- ・石村貞夫, 加藤千恵子, 劉晨, 石村友二郎『SPSS でやさしく学ぶアンケート処理 第 4 版』, 東京図書, (2015)
- ・内田治『すぐわかる SPSS によるアンケートの調査・集計・解析 (第 4 版)』, 東京図書, (2010)